

国語科学習指導案

令和3年10月5日(火)第2校時

小学校 第4学年1組

児童数 男子 人 女子 人 計

授業者

1. 単元名：気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう

2. 教材名：ごんぎつね

3. 単元の目標

・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。(思 C(1)エ)

・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思 C(1)オ)

・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。

(知(1)オ)

4. 単元設定の理由

(1) 教材について

本教材はいたずら好きのひとりぼっちのごんとひとりぼっちになった兵十が登場する物語である。ごんは兵十の母の死をきっかけに兵十に対してせめてもの償いという切ない思いで行動するが兵十には届かない。物語の最後には兵十に撃たれてしまう。この物語は心を通じ合わせることができない悲しさが書かれている。また、「わたし」が語り手となって書き進められている。ごんの視点や兵十の視点に立って読むことで登場人物の心情の変化、場面の移り変わりを読むことができる教材である。独り言や心中の思いなどを用いて登場人物の心情が書かれているので、児童は楽しみながら読み進めていくことができる。物語を読むことの楽しさを味わい、さらに読み広げようと意欲を持つのに適した教材であると考え。

(2) 子どもについて

本学級の児童は朝の学習の時間や図書の時間で本を読むということに慣れている。そのため、物語を読むことは好きで取りかかりやすい。話すこと、聞くことに関して、授業に積極的に参加し、発言する児童が多いが難しい発問や自分の考えを説明する場面では自信がなく発表しにくい児童もいる。聞く姿勢がいい児童が多く発言に対しての反応もあるため授業中に発言しやすい環境である。書くことについて、抵抗感を感じる児童は少なく自分の言葉で気持ちを書こうとする姿勢が見られる。しかし中には個別で話をしないとスムーズに取り組めない児童もいる。児童は、ごんと兵十の気持ちを読み取る時違った考えや感想を持つと考える。叙述をもとに自分の考えと他者の考えを比べることを通して考えを見つめ直すと共に作品に対する理解を深めさせたい。

(3) 指導について

本単元では、ごんと兵十の行動や心情の変化をつかみ、そのきっかけを考えさせながら読ませたい。そこで中心となる人物の気持ちを場面ごとに「ごん日記」という形で設定する。第一次では初発の感想を書かせる。疑問に思ったことや不思議に思ったことなどを書かせる。第二次からは本文からごんの行動に線を引かせ、なぜそのような行動をしたのか気持ちに焦点を当てながら読み取っていく。本時の指導においては第六場面からごんを撃つ前と撃った後の兵十の気持ちの変化と撃たれたごんの気持ちを読み取らせる。その時の兵十の気持ちを絵で表すなどし、視覚的に分かりやすいように指導する。また次の時間に「青いけむり」に注目させごんと兵十の後悔やさみしさ、悲しさが残ることに気付かせる。感想・考えだけでなく、なぜそれに至ったのかについて、叙述を根拠に考えさせたい。自分が判断の根拠としたことを他者のそれと比べることを通して、自分の感想・考えを見つめ直すとともに、作品に対する理解をより深めさせたい。

5. 単元の評価規準

観点	評価規準
知識、技能	・様子や行動、気持ちや性格を表す語句を話の中や文章中で使うことができる ((1)オ)
思考力、判断力、表現力	・場面の移り変わりとともに描かれる登場人物の気持ちがどのように変化しているのかを具体的に思い描くことができる (C(1)エ) ・文章を読んで理解したことについて自分の考えを形成することができる (C(1)オ)
主体的に学習に取り組む態度	・友達の発表を聞きより豊かに登場人物の気持ちを想像しようとしている

6. 単元の指導計画 (全9時間)

次	時間	内容	評価規準
第一次	1	・初発の感想を書く ・登場人物の整理をする	・登場人物の気持ちを捉えている (思 C(1)オ)【ノート】
第二次	2	・第一場面を読み、ごんの行動や発言から気持ちを読み取る	・登場人物の気持ちを表す語句を知り、使うことができる (知(1)オ)【ノート】
	3	・第一場面を読み兵十の様子を読み取る ・ごん日記を書く	・場面と場面を結びつけたり比べたりして登場人物の気持ちの変化を読み取っている (思 C(1)エ)【ノート、発言、日記】
	4	・第二場面を読みごんの行動や発言から気持ちの変化を考える ・ごん日記を書く	・情景描写や会話の表現や叙

			述を基に登場人物の気持ちを想像している(思C(1)オ)【ノート、発言、日記】
	5	・第三場面を読みごんの償いの行動から気持ちを読み取る ・ごん日記を書く	・友達の発表を聞きより豊かに登場人物の気持ちを想像しようとしている(主体的)【ノート、日記】
	6	・第四、五場面を読み兵十と加助の後をついて行ったごんの気持ちを読み取る ・ごん日記を書く	
	7 (本時)	・第六場面を読みごんと兵十の気持ちの変化を読み取る	
	8	・第六場面を読み青いけむりの表現について考える	
第三次	9	・ごんと兵十の気持ちの変化をまとめる ・ごん日記を書く ・学習を振り返る	・友達の発表を聞きより豊かに登場人物の気持ちを想像しようとしている(主体的)【ノート、日記】

7. 本時の学習(7/9)

(1) 本時のねらい: 第六場面からごんと兵十気持ちを想像しよう

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	●評価 ○支援
○火縄銃についてのクイズ		
○めあての確認 「第六場面を読んでごんと兵十の気持ちを想像しよう」		
○第六場面の兵十とごんの行動に線を引く	・ごんは黒、兵十は赤でわかりやすくする	
○兵十の行動から気持ちを想像する ・物置で縄をなう ・ふと顔を上げる →うなぎを盗みやがったきつねめがまたいたずらをしに来たな	・ぬみやがった、ごんぎつねめという言葉から憎い、恨んでいる気持ちに気付かせる	●思C(1)エ ノート ○気持ちが考えにくい場合は前後の文を読み返し気持ちが書かれている所を探す

<ul style="list-style-type: none"> ・「ようし。」、なやにかけである火縄銃を取って、火薬をつめる ・足音をしのぼせてドン ちました うた! 当たったぞ 		
<ul style="list-style-type: none"> ・かけよった→くりを見る→ごんを見つける ・「おや。」「ごん、お前だったのかいつも栗をくれたのは」 ・火縄銃をばたりと落とす 		
<ul style="list-style-type: none"> ○兵十の気持ちを個人で考えて、ペアで話し合い、全体で発表する →うってしまって申し訳ない、気づかなくてごめん、くりをくれたのは神様じゃなかったのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・かけよったから火縄銃をばたりと取り落とす所まで先に行動を確認してから気持ちを考えさせる 	
<ul style="list-style-type: none"> ○このときの兵十の気持ちの変化を絵文字にして書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・火縄銃を撃つまでの兵十の気持ちと違うことに気付かせる 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ごんの行動から気持ちを想像する ・くりを持って兵十の家に行く ・家の中に入る ・ばたりとたおれた ・ぐったりと目をつぶったままうなずいた ○ごんの気持ちを個人で考えて、ペアで話し合い、全体で発表する →やっと思ついでくれた、気づいてくれて嬉しい 		
		●思C(1)エ ノート ○気持ちが考えにくい場合は前後の文を読み返し気持ちが書かれている所を探す

○次回の予告をする ・ごん日記を書く ・青いけむりの意味を考える	・次回の学習内容を知らせる
--	---------------

(3) 板書計画

<p>① め 新美南吉 第六場面を読んでごんと兵十の 気持ちを想像しよう</p> <p>② 行動 ③ め くりを持って兵十 の家に行く ④ 物置でなわをなっている ⑤ 家の中に入る ⑥ ふと顔を上げる 立ち上がる ⑦ 火縄じゆうを取る ⑧ 火薬つめる ⑨ 足音をしのばせて ドンとうつ ⑩ けつ ぱたりとたおれる かけよった ⑪ くりを見つける ⑫ め くりを見つけた 「ごんおまいだったのか。 いつもくりを くれたのは。」 ⑬ けつ うなずく ⑭ 火縄じゆうをバタリと 取り落とす</p>	<p>⑮ やった・当たった うなぎをぬすみ やがったぎつねめ 仕返ししたろう</p> <p>⑯ うってしまつて 申し訳ない 気づかなくてごめん くりをくれたのは 神様じゃなかった</p> <p>⑰ やつと気づいて うたれて悲しい</p>
---	--